

人口の減少を 目の当たりにして

「安全が担保されない『まち』から人々は逃げ出します」と広報よしだ6月号に書きましたが、最近数カ月の人口の推移には「住民の逃避」が現実となつたのではないかと受け止めざるを得ないものがあります。「危急存亡の危機」、まさにこの言葉が現実味を帯びていると受け止めています。

中国の『史記』に次の言葉があります。「安危は令を出だすに在り、存亡は任ずる所に在り」。その意味するところは、国が安らかであるか危いかはその出す法律によって決まり、国が存続するか滅亡するかはその任用する人物によって左右される。今、私は町長の任に在り、一昨年の東日本震災以降の本町の人口の減少を目の当たりにして、ずしりと肩にかかる責任の重さを実感しています。

吉田村が生まれ、吉田町となり、今年で120年余の月日が経ちました。遠州の東の端に位置する一寒村であつたこの町は、先人た

ちが流した汗と涙の上に築かれ、今では県下屈指の勢いのある豊かなまちの一つとなり、今に生きる町民の皆さんはその恵みを受受しています。私は、勢いのあつた豊かなこの町を第4次総合計画でうたつた将来都市像「人と人、心やすらぎ健康で住みやすいまち、吉田町」に仕上げ、次代を担う人たちに渡さなければなりません。しかし今、この町が重大な危機にさらされ、この町の明日が揺らぎ始めています。その兆候が、先ほどお話ししました、この数カ月で顕著になり始めた人口の減少にほかなりません。6月号でお話ししましたように、平成22年に実施された国勢調査の結果に基づいて公表された今後30年間の「地域別将来推計人口」によれば、この町は、2015年には30,348人、2020年には30,458人と右肩上がりに人口が増え続けているものと推計されています。しかし現実的にはこの推計に反し、この町の人口は減り始めています。私は、この数カ月で顕著になり始めた人口減少の傾向は一昨年

町長からのメッセージ 114

津波防災まちづくり⑩



の東日本大震災がこの町に及ぼした深刻な影響の結果であり、これが人口の流出を引き起こした大きな要因になつていゝるものと受け止めています。私が、一昨年の大震災を目の当たりにして「恐れおののく事態」とは、まさにこの人口の流出が現実のものとなることであり、この結果は、明日のこの町を台無しにするものだとして強く意識しています。

人口減少の 背景について

まず、左ページの上段に掲げられたこの町の人口推移を示したグラフをご覧ください。昨年の年末以降の半年で、人口の急激な減少が起こつていゝることがお分かりになるものと思ひます。この町でこのような事態が起きたのです。深刻に受け止めなければなりません。私が、テレビに映し出された一昨年の東日本大震災の映像を目の当たりにして脳裏に浮かんだこの町を襲うであろう事態とはまさにこのことなのです。だからこそ東日本大震災の発災を機に「津波防災まちづくり」

をこの町の総力を挙げて取り組むべき空前絶後の一大事業と位置付け、全速力で走つていゝるのです。ただ現時点で見られる人口減少は、家族単位での転出という事例はあまりなく、転出者の多くが生産年齢人口(15~64歳)に属する単身世帯の転出事例が多くを占めており、今後この人口減少が一时的なものかどうか注視深く見ていく必要があると思つていゝます。

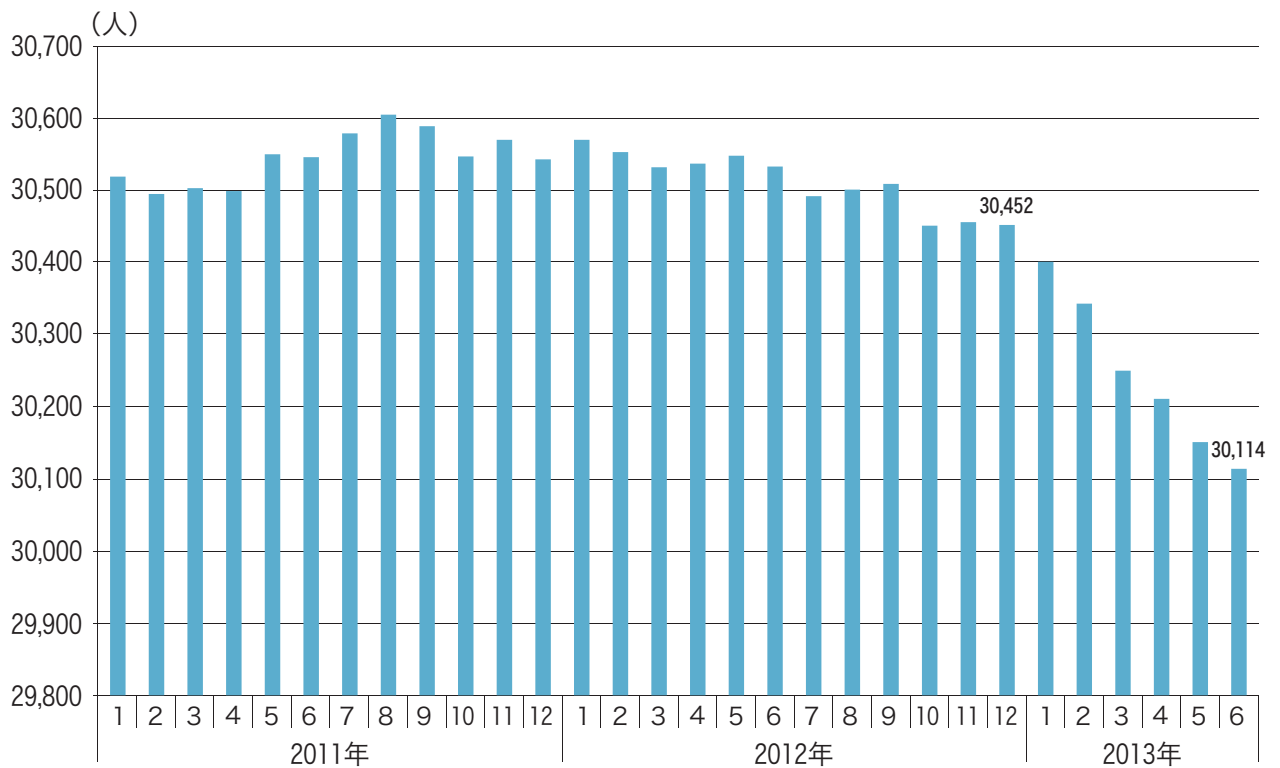
また、左ページ下段の地区別人口推移を示したグラフからは、町内においても南から北へ人口のシフトが起こつていゝることが分かります。

津波防災まちづくり の最終目標について

この町の「津波防災まちづくり」の最終目標は、大井川の堤防のかさ上げ、防潮堤のかさ上げ、坂口谷川の水門の設置などであり、国や県に対してこれまで以上に要望活動に全力を注ぐ所存です。今後、町民の皆さんの「津波防災まちづくり」へのご理解とご支援をよろしく願ひします。



町の人口推移（住民基本台帳より）※外国人を含む



地区別人口推移（住民基本台帳より）※外国人を除く

